



# 富士のさと おはなし広場と自然遊び塾

令和7年10月～令和8年2月

## ○趣旨

幼児期における自然体験や本に触れる体験の機会を増やし、自然のもので遊んだり、さまざまな本に触れたりすることを通して、豊かな人間性を築く基礎を培うとともに、体験活動の重要性の普及と当所の周知を図る。

## ○実施した御殿場市内、小山町内の幼稚園（6園）・保育園（11園）・こども園（11園）（太字：新規）

御殿場幼稚園、富士岡幼稚園、亀幼稚園、原里幼稚園、森之腰幼稚園、玉穂幼稚園、東保育園、西保育園、原里第1保育園、原里第2保育園、玉穂第1保育園、玉穂第2保育園、高根第1保育園、**萩原保育園**、高根学園保育所、富岳保育園、印野こども園、神山認定こども園、すみれこども園、認定こども園ぶらんこ、高嶺の森のこども園、双葉保育園、未来こども園、きたごうこども園、すがぬまこども園、菜の花こども園、みらいこども園、すばしりこども園  
（参加園：計28園、参加人数：計1387名）

## ○活動の流れ

1つの活動は30分間を基本とし、3つの活動をローテーションにより実施した。

（下記は基本的なタイムスケジュール、園によっては年長のみに対応。当所での森遊びは除く。）

	開始～0:30（30分間）	移動（5分間）	0:35～1:05（30分間）	移動（5分間）	1:10～1:40（30分間）
3歳児	かんなくずを使った活動（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）
4歳児	身体を動かす活動（室外）		すべらップづくり（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）
5歳児	絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）		薪割り（室内）

## ○内容（活動の様子）

### （1）絵本の読み聞かせ〔運営：御殿場市立図書館ボランティア、小山町立図書館ボランティア〕

図書館ボランティアが子供たちにとって季節感のある魅力的な本を選定した。本事業の他の活動や保育とつながる本を読み聞かせすることで、「クラスでの活動と絵本がつながり、興味を持って見る事ができた」「どろだんごについての絵本に興味を持った子供たちが、砂場でどろだんご作りが始まった。どうしたら固くなるのか、上手に丸くなるのかなど試行錯誤する姿が保育の場に見られ、絵本の世界が遊びの世界へ広がった」などの感想があった。ボランティアの雰囲気づくりがゆったりとした読み聞かせの時間となり、子供の心を豊かにする手立てとなった。



【読み聞かせ】

### （2）自然のものを使った体験活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

木育がテーマであるため、身近にある木は使うだけではなく、新しい苗木を植え、お世話をする事が大事であることをフリップで全学年に伝えた。「木が大きくなるには、たくさんの時間が必要だ」「大事にしなくちゃ」などの感想があった。保育の中で、身の回りにある木製の物を探したり、花や野菜に対してもお世話をしたりする姿が見られた。3歳児は、かんなくずを広げ、五感をフルに使ってダイナミックに遊んだ。また、かんなくずを活用し創作や装飾にする園が増え保育とつながりが深まった。4歳児は「すべらップづくり」をする中で、木目に注目したり、匂いや手触りを感じたりする姿があった。5歳児は、キンドリングクラッカーを用いた「薪割り体験」を行った。薪の向きを考え、割りやすい木、割りにくい木があることに気付いている子がいた。「どの活動も日頃触れることがない木と触れ合う体験は貴重で、五感を使って活動することは、子供たちへ大きな影響を与えることができるということが分かった」などの感想から、体験し振り返ることで自分事になっていくのだと感じた。



【かんなくずを使った活動】



【薪割り体験】

### (3) 身体を動かす活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）「からだじゃんけん」の後、サーキット運動を行った。からだじゃんけんやサーキット運動は新鮮だったようで、保育に取り入れたいという感想があった。からだじゃんけんでは、園庭を自由に走り、合図があったら止まる動きがあるが、周りを見て行動するという安全面や体力面の向上につながるような活動にできた。普段の保育では、どうしてもセーブしてしまう動きが子供たちにとっては魅力的で、挑戦する姿が数多く見られたことが保育者にとっては驚きだったようだ。また、サーキットには多くの基本的な動きを取り入れているため、子供たちができない動きがあると、同じ動きではなく様々な動きを行う良さを感じた。サーキットの中に、本物の木で積み木をする場があるが、木が真っすぐでないので、積み上げていくのが絶妙な難易度で面白かったようだ。遊び塾後の給食では、普段食事に時間がかかる子があつという間に完食していたということから、読書・外遊び・食事は関連性が高いものであった。また、身体を動かす楽しさを感じた子が、外遊びに行きたがる子が増えたという報告もあった。



【身体を動かす活動】

### (4) 森遊び〔運営：中央青少年交流の家職員〕

昨年度から3園増え、5園が来所し森遊びを実施した。昨年度同様、落ち葉プール、木登り、薪割り、焚火、スラックライン、銀杏の葉やまつぼっくり、どんぐりなどを拾う所内散策などを行った。雨で森遊びができなかった園は、研修館でサーキット運動などを実施したが、自然を感じてもらうため、小雨の中レインコートを着て散策を行ったことで、雨ならではの発見をしていた。たくさん遊びがある中で、目標・目的を持って楽しむ姿が見られ、一人ひとりが自分のやりたいことを存分に楽しんだ。薪割りをした後、自分で割った薪で焚き火ができるのは感動する体験になったようだ。最初は遊びに消極的だった子が、他児の遊びを見てチャレンジを繰り返し楽しんだ。弁当を食べ終わった後、寝転び、空を見上げ、雲の流れを見て心地の良い時間になっていた。来年度も、当所で森遊びをする園を少しずつ増やしていきたい。



【森遊び】

### (5) お便り作成・配付〔運営：中央青少年交流の家職員〕

今年度は、当所職員がおはなし広場と自然遊び塾の活動の様子をお便りにして各園に配付した。スピード感を持って作成し、写真を多くすることで、活動の様子が伝わるように工夫した。お便りの効果検証をするために、各園にアンケートを依頼した。その中で、「活動の様子が伝わるものであった」「配信が早かったのが良かった」「他学年の様子が分かった」「園の負担が減った」などの好意的な感想が多かった。

#### 《園からの声》（原文のとおり）

○活動中、子供たちの様子を見ながら、さり気なくアドバイスして下さり、子供たち自身がなぜいいのを感じられるような声掛けをして下さったことで、子供たちのやる気や挑戦意欲が増していた。学ばせていただいた。

○普段の保育ではできなかつたりやらなかつたりすることが、逆に子供たちの成長を止めているのではないかと思った。挑戦させることの大切さを知った。

○全てお話絵本ではなく、子供参加型のもなど、変化のある選書だったので、とても集中して聞くことができていた。

#### 《成果と課題》

○今年度、2園に新規で参加いただいた。当所の周知につながると期待する。

○当所に来所する園が増えた。継続して森遊びを楽しむことで、昨年ではできなかった、興味がなかったことを遊ぶ様子が見られた。

○かんなくずや薪を園のアイデアで、創作したり園の装飾に活用したりする園が増えた。子供たちにとって学びのある活動につながり、年々深まっている様子が分かる。

●職員について、好印象で親しみやすかった、安全に配慮していただいたなどの好意的な感想が多いので、来年度も職員の誰が行っても同じレベルで行えるように研修を行う必要がある。

●事前に活動のねらいや遊び塾の意図が分かっていると、子供たちへの声掛けや援助の仕方を考えられるので教えてほしいという意見があった。